

令和5年度

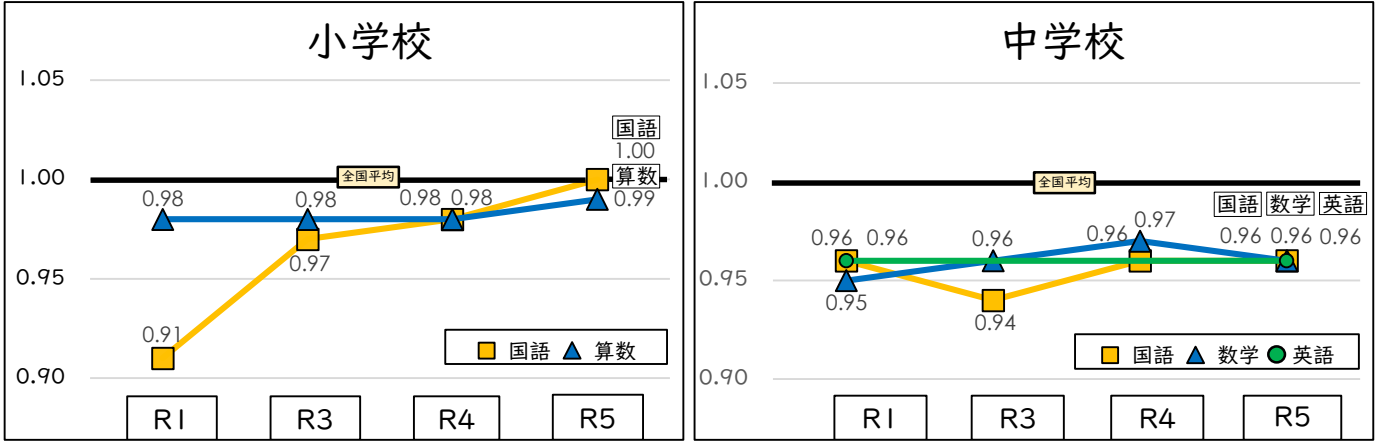
全国学力・学習状況調査の結果について

「令和5年度全国学力・学習状況調査」は、令和5年4月18日（火）に、小学校第6学年・義務教育学校前期課程第6学年の全児童、中学校第3学年・義務教育学校後期課程第3学年の全生徒を対象として、国語、算数・数学、英語の3科目で「教科に関する調査」「質問紙調査」が行われました。

◆教科に関する調査の結果◆

○平均正答率の対全国比の経年比較

※全国の平均正答率を1としたときの大阪市の割合を「対全国比」として表しています。  
※中学校英語における前回調査は、令和元年度に実施されていました。  
※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症にかかる状況及び学校教育への影響等を考慮し、実施されていません。



平均正答率の対全国比について、小学校では前回調査と比較して国語・算数において改善し、とりわけ国語はほぼ全国水準に達しました。中学校では前回調査と比較して、数学において若干下降し、国語・英語は横ばいでした。

○今年度の問題より（一部抜粋）

【中学校数学】問題7（2）  
「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題」（正答率 大阪市27.0% 全国33.6% 全国との差6.6ポイント）

（2）二人は、前ページの箱ひげ図を見て、話し合っています。

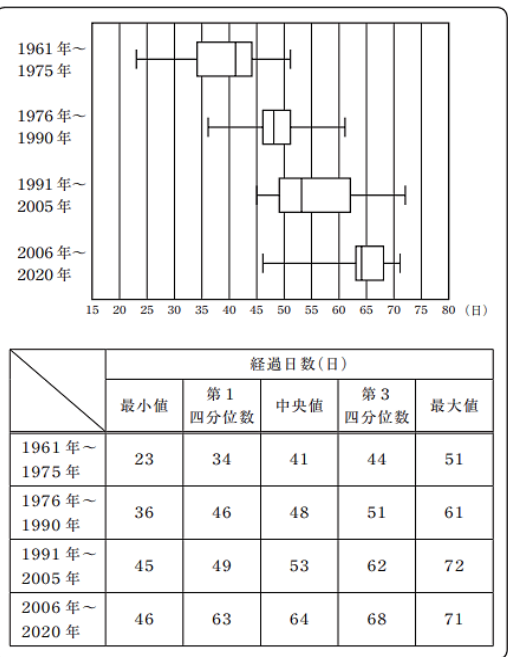
一花さん「4つの箱ひげ図を見ると、黄葉日はだんだん遅くなっている傾向がありそうだね。」  
啓太さん「でも、1991年～2005年と2006年～2020年の箱ひげ図は、右端と左端が同じくらいの位置にあるよ。遅くなっているといえるのかな。」  
一花さん「確かに箱ひげ図の右端と左端についてはそうだけど、箱に着目すれば、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にあるといえるのではないかな。」

前ページの箱ひげ図を見ると、一花さんのように「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、1991年～2005年と2006年～2020年の2つの箱ひげ図の箱に着目して説明しなさい。

日常生活や社会の事象を考察する場面において、ある事柄が成り立つ理由を数学的に説明する際には、説明の対象となる成り立つ事柄を明確にした上で、その根拠を指摘することが重要です。  
「（根拠）であるから、（成り立つ事柄）である。」



黄葉日までの経過日数の分布



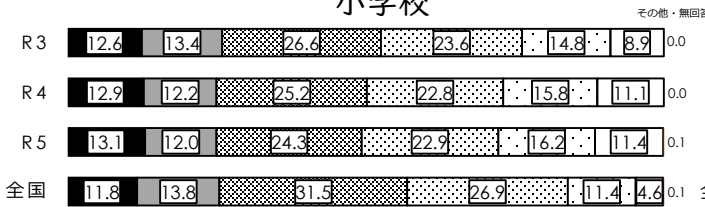
【解答例】

○1991年～2005年の箱ひげ図の箱よりも2006年～2020年の箱ひげ図の箱の方が右側にある。  
したがって、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある。  
○1991年～2005年の第1四分位数よりも2006年～2020年の第1四分位数の方が大きく、1991年～2005年の第3四分位数よりも2006年～2020年の第3四分位数の方が大きい。したがって、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある。  
○1991年～2005年の第3四分位数よりも2006年～2020年の第1四分位数の方が大きい。  
したがって、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある。

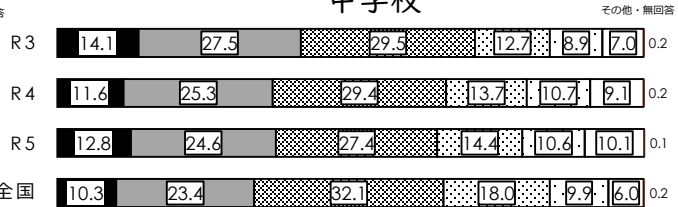
## ◆質問紙調査の結果◆ ※当該質問項目の調査があった直近3か年を比較しています。

○学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか  
（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

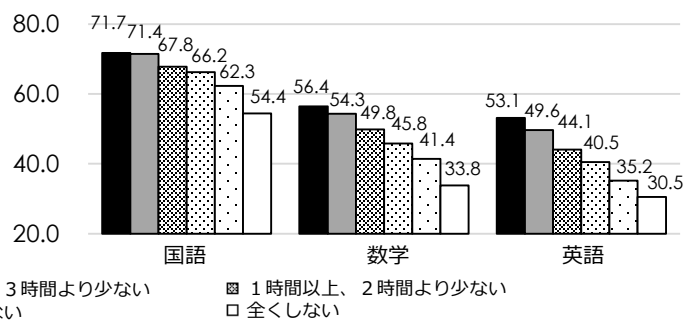
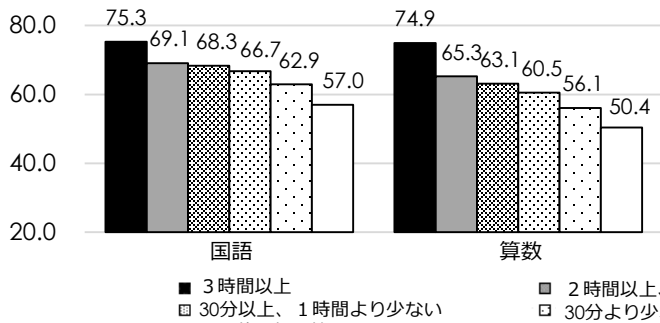
### 小学校



### 中学校



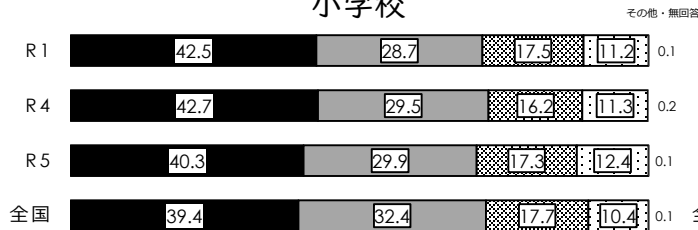
【教科の平均正答率と質問紙調査のクロス集計結果】



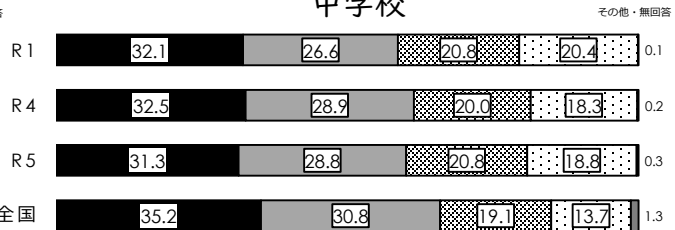
- ・「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問に対して、昨年度と比較すると、小中学校ともに勉強時間は減少傾向にあります。
- ・小中学校ともに、勉強時間が長い児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られます。

○読書は好きですか

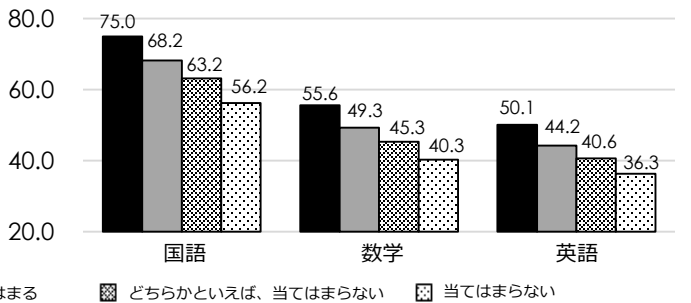
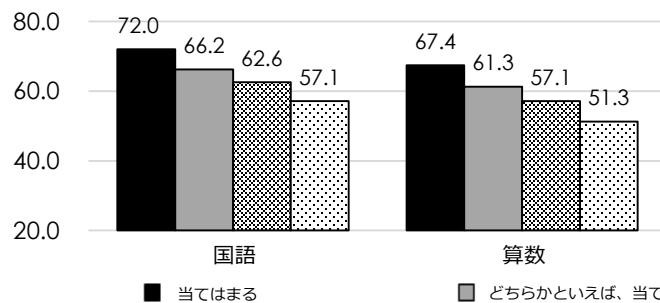
### 小学校



### 中学校



【教科の平均正答率と質問紙調査のクロス集計結果】



- ・「読書は好きですか」という質問に対して、昨年度と比較すると、小中学校ともに肯定的に回答した児童生徒の割合はやや減少しています。
- ・小中学校ともに、肯定的に回答している児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られます。

## ◆ご家庭でのご協力をお願いします◆



本市では、平日における学校の授業時間以外の勉強時間について、小学校では約3割、中学校では約2割の児童生徒が「30分未満」と回答しています。また「読書は好きですか」という質問に対して、小学校では約3割、中学校では約4割の児童生徒が否定的に回答しています。

学校の授業時間以外に勉強に取り組んでいた、「読書は好きですか」の質問に肯定的に回答をしたりしている児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られます。基礎的・基本的な知識・技能等を身に付けるためには、学習習慣の定着や、様々な文章を読んで自分の表現に役立てることが重要です。ご家庭での過ごし方等について、お子様と今一度話し合ってみてください。